

教団新報

定価 1部150円(本体137円+共21円)
予約購読料 1年分 千円 5,350円
紙代のみ 3,750円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋山 徹
編集主筆 嶋田 恵悟
印刷所 株式会社きかんし

《宣教師からの声》 変化の中に主の恵みを受け止めて



上：ベルリン日本語教会、4月4日イースター礼拝
下：ベルリン日本語教会、5月16日礼拝後

神さまと人から離れず生きる

秋葉睦子《ベルリン日本語教会牧師》

コロナ禍で小さな群れにも多くの変化がありました。昨年春以降は、現地ドイツ教会の墓地や軒下で屋外礼拝を守り、秋からはホールの片隅で換気しつつ対面礼拝を続けています。ロックダウン中はメールでの説教配信でしたが、逆に新たな視点も与えられました。牧師も信徒も電話やメールでこれまで以上に頻繁にやり取りし、絆が深められました。たださえ海外生活はストレスも多く、母国語で祈りを合わせ、御言葉を聴く重要性を改めて痛感しました。

コロナ禍で小さな群れにも多くの変化がありました。昨年春以降は、現地ドイツ教会の墓地や軒下で屋外礼拝を守り、秋からはホールの片隅で換気しつつ対面礼拝を続けています。ロックダウン中はメールでの説教配信でしたが、逆に新たな視点も与えられました。牧師も信徒も電話やメールでこれまで以上に頻繁にやり取りし、絆が深められました。たださえ海外生活はストレスも多く、母国語で祈りを合わせ、御言葉を聴く重要性を改めて痛感しました。

マスク越しでも対面礼拝を分かち合えることは本当に大きな恵みと励みです。讃美もマスク着用で、聖餐にもあずかれず、愛餐会や集会も中止で牧会訪問も控え、もどかしさが募りますが、主にあって希望を忘れず感謝をもって歩もう、と小さな群れも頑張っています。ここにきてドイツでは感染が増え、特に子どもへの感染が急増中です。息子たちの学校でも多くの陽性反応が出ています。ロックダウンによる学校閉鎖で、学業と精神面での子どもへの影響は深刻です(保護者も)。子どもたちへのワクチン接種も開始されましたが議論は尽きません。各人のコロナに対する意見や対応の温度差は大きく、

ベルリンでもコロナ規制反対デモが頻繁に行われ、分断を憂えています。ドイツ教会でも対面礼拝中止の所もあれば、マスクなしで屋内で讃美する所もあり、各教会によってかなり異なります。礼拝や集会の在り方は各教会の判断次第ですが、そのアプローチは様々です。近所の現地教会では屋外礼拝を何度も守り、4回のクリスマス礼拝は駐車場で行った。音楽家が代表で独唱や演奏することも増えました。ベルリン日本語教会も長く関わる東アジア合同礼拝やエキクメニカル礼拝などは全てオンライン配信となりましたが、不安を超え実に鮮やかに喜びの礼拝を備えてくださった主の恵み深さに、ただ感謝でした。

ユースチューブやポッドキャストでの礼拝配信やラジオ、テレビでの礼拝中継も定着し、礼拝も神様との出会いもグッと幅が広がりました。主の恵みの可能性と多様性を実感する良い機会となりました。困難な時代ですが、どのような方法でもどのような時でも、神さまと人から離れず寄り添って生きることの大切さを日々示されています。

コロナ禍でつながる

石田 求《アメリカ合同教会シカモア組合教会日語牧師》

私が仕えるシカモア組合教会は、昨年の5月から対面とズームを使ったハイブリッド礼拝を守っているが、周辺地域の教会では一度も対面礼拝を再開せず未だにオンライン礼拝を続けているところが多くある。また昨今の状況から一度は再開したものの再びオンライン礼拝に戻る教会も多い。正解のない状況の中でどのようなスタンスを取るかは各教会に委ねら

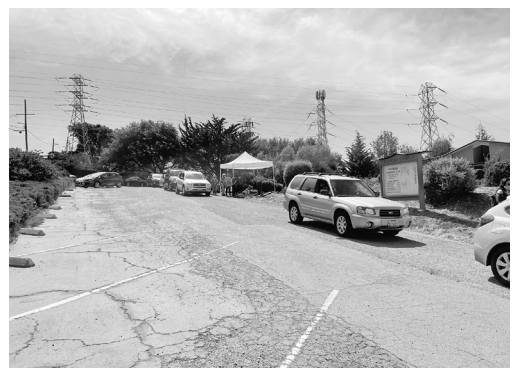
れている。私はコロナ禍のため約1年の間、日本で待機をした末に昨年の2月によって着任した。アメリカはその頃からワクチン接種が進んでいたため、私が来てすぐに対面礼拝再開のために動き出した。時期尚早という声もあったが、説得を重ね、対面とズームのハイブリッド礼拝の再開に踏み切った。日語メンバーの方が英語メンバーよりも

年齢層が若いことから日語礼拝から試験的に再開した。その後、日語礼拝には順調に人が戻り、先のクリスマスには2名の転入者が与えられたが、英語メンバーは高齢化が進み、対面礼拝の参加者は少ない。教会から足が遠のく中、なんとか来てもらえないかと事前予約のドライヴスルー方式で、当日は車内で弁当の受け渡しができる弁当テーブルを何

度か行った。バザーも同じように弁当のみの販売で行った。すると普段来ない人たちが大勢集まった。コロナ禍で外出しないようになり、足腰が弱った方もいる。運転もしなくなり、ドライブに不安を覚える方もいる。礼拝は危険だと家族に止められている方もいる。そのような方々が家族や近所の人にお願ひして、弁当を受け取りに来た。その

方々は教会に行く理由を探していたのではないかと感じた。現在、いくら感染拡大防止策を講じても100%安全とはいえない。教会に来て「教会に来てください」と言いにくい。教会に行くかどうかは個人の意思に委ねられている。その中で教会に行きたくても行くことができない方がいることを忘れてはならない。その方々が教会に来ることができ

る機会を、状況を注視しながら絶えず探し求めていきたい。この長いトンネルを抜けた時に、教会が理由なしに行きたいと思える場所になるために。



上：バザーで弁当を受け取りに来た車の列
下：バザーでお米班の日語メンバーと(左下、筆者)

東日本大震災関連記念行事日程

《奥羽教区》

東日本大震災11年を覚えての礼拝

◎各地区で予定されています。
詳細は教区事務所まで。

《東北教区》

東日本大震災11年記念礼拝

◎日時 3月11日(金)午後2時30分～
◎主会場 東北教区センターエマオから、リモートで配信
◎説教 関川祐一郎牧師(石巻山城町教会牧師・東北教区副議長)

新型コロナウイルス 感染拡大の渦中で

社会での奉仕者の声に聞く

社会委員会が支援 した活動の中から

NPO法人神戸の冬を支える会 《兵庫県》

野宿者のいちがそこなわれないように

神戸の冬を支える会
の「2021―2022
年神戸越年越冬活動実行
委員会」が掲げた活動主
題は「野宿したくない人
が野宿をしないように！」

今、野宿せざるを得ない人のいのちがそこなわれないように！」でした。

以前から様々な団体に
よるホームレスへの支援
活動があったと聞きま

は公園から出ていけ」と言われる状況が起こりました。震災で家を追われた人への支援と震災前に家がなかった人への支援の隔たり・差別は許されな

そば、豚汁、ぼっかけを、兵庫教区は麻婆豆腐丼（12月30日）、中華丼（1月4日）をそれぞれ120食作りました。コロナ禍のため各団体のボ

ます。1995年から路上で亡くなった多くの人の名前を大きなパネルに貼り出して並べているテントです。そこには、この27年の間に年末年始の

「きずな」は約30年前から始まり、正式な名称を掲げたのは20年前です。超教派のクリスチャンが関わっていますが、教団の岡山教会、倉敷水

ちの団体としては大変です。

ラーメンなどの食品とマスクやカイロなどの袋を持つての夜回りや、週2回の食事提供などは何

を提供していました。足を延ばしおしゃべりをし順番を決めて洗濯もしました。多くの方々から寄せられた衣類の中から、必要なものを探し出

当を手渡ししています。洗濯はできます。21年暮れにコロナが落ちて着き始めて、そろそろ入ってもらえるかと思っていた矢先にオミクロン。理事会

路上で亡くなった人々を覚えるパネル

1995年1月17日に神戸を襲った兵庫県南部大地震により被災した住民が公園や学校の校庭などに避難したところ、以前から公園に寝泊まりしていた方々が「ホームレス

の年の12月15日から40日間、テントを8張立てて支援活動を行いました。その時から今年で27回を数えます。

2021-2022年は12月28日から1月4日まで、神戸市役所南側の東遊園地で日本基督教団兵庫教区を含めて計5団体がそれぞれ担当日を決めて炊き出しを行いました。他の団体は年越し

しほっての実施でした。コロナ禍が鎮静化すれば、例年の餅つき、書き初め、生力ラオケ、遊びコーナー、追悼の日が復活することでしょう。

この活動中には医療相談、生活相談、法律相談のテントを立てています。炊き出しを通してホームレス状態の人たちとの距離を縮め、何らかの必要を求める方々に相

回りの中で出会った方々の名前があります。一人一人にはそれぞれかけがえない人生がありました。その方々の名前と人生を忘れないために張り出しています。掲載した写真がそうです。

これからもこの活動を覚え、お祈りご支援くださいますようお願い申し上げます。

（浦上結慈報）

物資が届けられていま
す。私は25年前から関わ
り、週一回の夜回りに参
加しています。

現在はボランティア活
動に加え、市からの委託
事業にも参入していくよ
うになりました。組織が
大きくなっていく割にお
金集めは下手で、しかも
公共の事業は誠実に関わ
ればそんなに儲けさせて
はくれませんので、私た

実しようとか常に話し合っています。夜回りで「寝袋が欲しい」、「靴が欲しい」などの要求に応えたり、「気が付いたら野宿になっていた」という人などへは細かい配慮や、就職に向かっの相談など、各分野で職員が対応しています。が、何と云っても、自分がホームレスになってしまったことを受容するのには時間がか

ました。変な話ですが、ウチのホームレスたちは、いわゆる汚れた服は着ていません。街ですれ違ってあとから、振り向いて「彼じゃん」と思うくらいです。向こうもふり返ってヤアというくらいです。ふつうの街の流れの中にいます。勿論街の流れに溶け込めない人もいますし、家があってもホームレスの人はいま

岡山・きずな《岡山県》

正しく恐れつつ、関わり続ける

ちの団体としては大変です。

を提供していました。足を延ばしおしゃべりをし

当を手渡ししています。洗濯はできます。21年暮



ています。①

た遊び体験、③子育てを支援する活動（とりわけ食育）、④学習支援＋「晴嵐みんなの食堂」、そして、⑤「フードドライブせいらん」です。

様々な角度から、今の子どもたちや家庭の現実を受け止め、様々な子どもたち・家庭にあったプログラムが、準備されて

が、活動が全く途切れることがなかったのは、このような活動が、一つのの
精神を土台として、多様性をもっていたからであ
ると言えるでしょう。

滋賀地区伝道協議会西ブロックとして、この活動に参与したのは、今から、およそ5年前のこと
でした。子どもたちの居

けて、その関わりも希薄化しそうにもなりました。が、この団体のために、クリスマス献金をさげてくださいる諸教会もあり、更なる関係性の構築が、これからも求められているように感じています。

コロナ禍を受けて、人間関係が希薄になりえる

立つて、しっかりと探っていくものでありたいと思います。また、そのために、今、自分たちが置かれている周りの現状に、しっかりと関心を持ち、つながりをもっていくことを、今後も大切にしていきたいと思うのです。

(須賀 工報)



皆が集合できる安楽亭内で、
足を伸ばして食後のおしゃべり

コロナの初期の頃、誰か一人でも発症したらすべての行動を止めましょう等と言っていました。が、考えたらそんなことはできません。出た時は出た時で考える。彼ら彼女らの立場になって最良を考えていく。正しく恐れつつ、しかし何としても関わり続けていく姿勢で進んできました。

（難波幸矢報／
光明園家族教員）

在日外国人教育相談センター信愛塾《神奈川県》

在日外国人教育相談センター信愛塾を紹介します

在日外国人教育相談センター信愛塾（以下、信愛塾と略）は1978年10月に発足しました。こ



信愛塾の仲間たち

は1978年
足しました。こ
れは在日コリ
アンのご家庭
に、就学通知
が届かなかっ
たことを契機
に、在日大韓
基督教会横浜
教会の皆さん
と、学校教職
員の方々のご
尽力によっ
て、活動が始
められたと聞
いています。
つまり、この
ことを通し
て、「在日コ
リアンの子どもたちには
教育を受ける権利がない
のか」という怒りと問い
が生まれたのです。神奈
川教区の諸教会・伝道所
もその前に立たなければ
ならなかったのですが、
長い間それを受け止める
ことが出来ませんでした。
そんな私たちを、導
き、学ばせてくださった
のも、信愛塾の多年に亘
る働きでした。近年、漸
く少しずつではあります
が、私たちが支援の輪に
加わることが出来るよう
になり、横浜地区の教会
伝道所を中心に献金を献
げさせていただいたりつ

学習ボランティア等で、協力させていただいたりするようになったのは、喜ばしいことです。

近年の信愛塾の活動としては、在日コリアンの方々だけでなく、来日された諸外国の方々の教育支援並びに、伴走型多言語相談を通し、主として子どもたちの人権を守る活動に邁進しておられます。

明らかである。少子高齢化の中でも日本に暮らす外国人がますます増え、各地で信愛塾のようなスペースが求められている。いつでも気軽に駆け込んでこられる『居場所』と伴走型の外国人相談。官制でない民営型のスペースだ。在日コリアンの子ども会として出発した信愛塾であるが、今やコリアンだけに限らず国籍や地域も多様化している。差別や偏見をなくす取組の必要性は高まって来るばかりだ」と記しておられます。

このように、現実を常に深く見つめ、新たな課題に取り組んでおられる信愛塾の働きに、これからも協力させていただきたいと願うものです。

（古谷正仁報）

フィリピンのためお祈りいただき、ありがとうございます。去る12月17日スーパー台風レイが私たちの住むボホール島を直撃、現在秋田で仕えておられるラバドン宣教師一家の出身地も含む北部が大きな被害を受けました。レイテ島からの送電線も台風後、海上から跡形もなく消えてしまっており、現在もボホール全土で停電中です。幸い水道は災害から1ヶ月後、部分的に復旧しました。

フィリピン 台風被害報告

より大きな
キリストの御業が
起こされるように

私たちの住む南部は北部
んだ」と叫びながら舟

より軽度の被害で済みましたが、自宅兼教会は屋根が破損、浸水、男性二人が押さえられても風に負けて玄關扉が飛ぶという強風でした。北部は壊滅的な被害を受け、特に小さな島々は高潮被害もあり残っている家の方が少ないはずです。

に走り寄ってきました。島々にはもともと水道や電気はなく飲み水は舟で本土から買ってくるのですが、その舟が台風で壊れてしまったため、水がないのです。炎天下、家も木々も倒れて木陰すらなくなつた島で、家財道具もろとも流されて「鍋

「台風が来るとは聞いていたものの、これほどとは」とは、ある教会の牧師。一夜にしてコンクリ

れ果てた帰り道に運転で
きなくなり車を止めて仮
眠し、真夜中に帰宅。そ
れを毎日のように繰り返
している夫を見て、これ
では台風で死ぬことはな
かったものの、支援活動
で死んでしまうと思いま
した。実際、電気水道の
ない生活はそれだけでも
大変で、多くの人が体
調を崩し、体の弱かった
方々が次々に亡くなりま
した。

幸い大規模な緊急支援
は一段落し、今は休むこ
とができています。現在
は週一回島々の牧師たち
に釘やトタンなどの支援
をしています。ガソリン
や銀行やスーパーも一時
は長蛇の列でしたが今は
落ち着き、発電機で仕事
も再開し、枯れ果ててい

いのでしょか。そう祈りました。その時、この言葉が心に響きました。「この宮のこれから後の栄光は、先のものよりまさろう。万軍の主は仰せられる。わたしはまた、この所に平和をあたえらる。一万軍の主の御告げ。」（ハガイ書2章9節、新改訳）。この瓦礫がいつかまた再建される、それだけではなくより多くの人々がこの場所に集い、主の栄光がここに満ちるといふことだと受け取りました。

枯れた骨が主の軍隊となつたエゼキエルの幻のように、枯れ果てたこの地に力強い勇者の大軍が生まれることを信じます。より大きなキリストの御業がこれらの地に立

ち上がるように、これ
らも祈っていただけ
ば幸いです。

事務局報

大村綾子（無任所教師）
21年10月2日逝去、87
歳。61年同志社大学卒業、
98年より04年まで筑後小
郡教会を牧会。遺族は息・
大村道生さん。

教師異動

ベウラ 就(代)竹内成子
伝道所廃止
徳島南

2・11メッセージ

「もし、善いことに熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。」（一ペテロ三・13〜15）

自分の生まれた年の1966年に「建国記念の日」が制定されました。

個人のあらゆる思想信条や信仰を抑圧し、もともと日本神話に由

来する天皇制を強要するために、明治憲法下の1873年に2月11日を日本国が成立した日として

「紀元節」という祝日に定められました。第二次世界大戦中、天皇を「神」として崇拜することが強要され、国民がその監視下に置かれ、キリスト教をはじめ他の宗教にも迫害と弾圧がなされていました。日本では自分の信じる神を自由に信じて生きていく自由が侵されました。

には天皇制存続を意識した「建国記念の日」として復活させたのです。天皇制によって信仰が弾圧されてきた日本のキリスト教界（宗教科界）は、諸教派の枠を超えて、月11日を「信教の自由を守る日」としました。

日本におけるキリスト教人口は少数ですが、少数であったとしても日本国憲法に保障されている基

本的人権の中にある「宗教の自由」に立ち、毎年この時に確認することとが求められているのではないのでしょうか。「これしかダメ」という枠付の社会ではなく、「これもある」という様々な情報の中で自由な出会いの場が与えられ、そこから神さまとの出会いという他者が強要することのできない招きに導かれていくのだと思います。

今、世界を見ると、多様性を受けとめ、声として挙げるこのことのできる自由の中にあります。他方、まだまだ苦しみ呻きの中にあつて声を出すことさえも抑圧されている政治的迫害の中、大きな監視統制によって個人の自由が踏みにじ

られていく姿がアジア、中近東
アフリカを含めた世界各地にあ
ることを知らされています。日本が

2022年2月11日

第41総会期日本基督教団
社会委員 庄司宜充



上：島々の様子
下：ピトゴ教会の中

2021 年東北地方地震
被災教会会堂等再建支援委員会東北教区・関東教区
10 被災教会の声

(オンライン訪問)

竜ヶ崎教会にうかがって

2021年東北地方地震被災教会会堂等再建支援委員会は11月16日に茨城県にある竜ヶ崎教会の方々にオンラインで話を伺った。

今回は支援委員会より、篠浦千史、黒沼宏一委員、河田直子各委員、オブザーバーとして福島純雄関東教区議長、道家紀一幹事が参加した。

竜ヶ崎教会からは飯塚拓也牧師と役員の堀田松子さん、平野和雄さん、田中和子さん、韓国から来ている徐志源^{シウォン}さんが出席してくださった。地震

牧師(中央)と教会員
4名

があった土曜日の夜、飯塚牧師は代務を担う那須塩原教会での礼拝に備えて、那須塩原のホテルにいた。そこでも停電が生じ、すぐには連絡が取れない状況だった。しばらくして牧師館との連絡がつき、竜ヶ崎教会と隣接する竜ヶ崎幼稚園の被害を確認した。本が落ちたりしていたものの、夜だったこともあり、大きな被害は見受けられなかった。

翌日の礼拝は徐さんがいつものように礼拝を担当した。ところが、天井や壁など上を気にしていたので当初気づかなかったが、礼拝堂やホールの上に大きな亀裂が入っているのが分かった。教会の床はコンクリートの下に垂木を敷いてその上に板を張っているの床下がない。1996年に移転してきて以来、何度も大きな地震を経験したので、今回は床を剥がしてその下を確認した。その結果、床下が隆起して

いることが分かった。そのため垂木を調整して床を平らにする工事を行うこととなった。その費用は400万円強だったが、教団からの100万円の支援は有り難かったと言われた。夏休みを利

用して2ヶ月かけて工事をし、9月第3聖日から礼拝堂での礼拝を再開した。その間、幼稚園のホールをお借りし、土曜日に椅子を並べ日曜日に片付けるとい

う作業を繰り返した。その作業も大変だったが、何より辛かったのは、子どもたちの教会活動が大きく制限されたことだ。

竜ヶ崎教会では月2回、子どもと大人が同じ説教を聞いて礼拝し、後の2回は子どもの説教が終わり、大人の説教の時

東北地方地震被災教会支援募金

郵便振替口座

◎口座名 日本基督教団

◎口座番号 00140-9-145275

通信欄に「東北地方地震被災教会支援」とご記入ください。

(篠浦千史報)

厚生年金加入促進問題

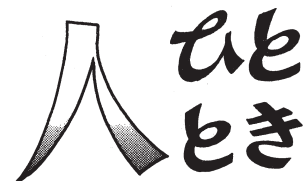
宗教団体の実態調査へ

ここ数年、キリスト教会にかぎらず、宗教法人格のある宗教団体に厚生労働省の所管である「日本年金機構」から「厚生年金加入」の実態調査が実施されていると、日本宗教連盟を通じて報告されています。しかしその調査は、いささか実態に即したものでなく、半ば強制的な方法が用いられていることが問題化しました。

本問題の発端は、「厚生年金法」第6条第2と「健康保険法」第3条第3項2号に記載されている「法人の事業所である」が、強制適用事業所に当るか否かの判断に因ります。しかしながら、まさにこの点が一

般の企業を定年退職してから献身して教師になる人も少なくありません。こういった宗教団体特有の実態についての理解がないままに、機械的に厚生年金(ひいては健康保険とセットになった社会保険への)加入促進が半ば強制的に実施されています。

今春には、厚生年金に加入していないと機械的に導き出した「宗教法人格のある宗教団体」への実態調査(アンケート)が実施される予定です。各宗教法人教会においては、慎重にお答え願いたいと思います。今回の調査は強制調査ではありません。任意調査です。不明な点があれば、教団事務局にご連絡ください。

クリスティーナ・
ボーネットさん

日本に遣わされて



米国で日本語イマージョン教育を行う公立小学校に入学し、カルビン大学で日本語と地理を学び新卒で赴任

「日本食の中で、絶対食べないと決めていたものを最近口にした。フケの唐揚げはサラサラしていて爽やかな味。スッポンは硬い牛肉のよう。鯨のどで汁はまんざらでもなかった」。よどみない日本語で、絶妙な表現を用い、自身のことを語るクリスティーナ宣教師は、召命を受け、3年前、21歳の時に来日した。

鎮西学院高等学校で、グローバル・イングリッシュコースの副担任を務める。高校3年生には最後の課題としてリサーチペーパーを課している。生徒はそれぞれにテーマを選び、初めての英語論文を執筆する。原子爆弾投下の倫理性やLGBTについて書

く者もあった。生徒たちは背伸びの末、3年間の学びの成果をクリスティーナ宣教師にぶつけ、学びの実を収穫して、気分爽快、卒業して行く。

聖書の授業も受け持つ。学院のキリスト教教育の再建に尽力した元ラガーマン、鐵口宗久学院宗教主任からのチャレンジだった。週末には大村教会に出席しつつ、乞われて佐世保東部伝道所や諫早教会でも説教する。

神学は高校生の時に両親と共に教会で学んだ。父は実験物理学者兼エンジニアだ。クリスティーナ宣教師も、親譲りの思索家で、抽象的に物事を捉えるのが得意だ。その賜物を活かしつつ、関心を、神学と日本宣教、日本人の思考様式に向ける。

鎮西学院は卒業生が教諭となつて戻るケースが多い中、異文化・他言語圏からの赴任である。日本語こそ堪能でも、学校の内在論理を短期間で掴むのは無理難題である。「周りの先生方とそりが合わない、心が通じない、自分だけ馬鹿じゃないか」と悩む日々が続いて落ち込むこともあった。だが今、その苦労が実を結びつつある。「3年間のすべてが益になった」と振り返る。

日本宗教連盟から推薦されて、昨年12月14日、文化庁長官賞表彰式に妻と共に出席した。21年度は74名の受賞者がいて、妻はその名簿に市川海老蔵さんの名を発見、目が輝いた。妻は海老蔵さんの大ファンで「サインをもらおう」と心弾ませて式に出席。「サインを求めてはいけない、サインをしてくれないから」と話していたが馬耳東風、式後、集合写真を撮るまでの時間にサインをもらいに海老蔵さんのところに飛んで行った。手をふって断られたが、「わたし

の顔を見てくれた」と大喜び。帰宅してからも海老蔵さんの話ばかり、妻にとって最高に嬉しい日になった。

都倉俊一長官の挨拶は「人は

パンではなく文化が

—文化庁長官賞授賞式に参加して

パンだけで生きずと言われているが」と始まり「文化が第一にされる社会を」、「文化で世界をリードする国に」と述べた。「文化が第一になる社会において人間は豊かに生きることがで

きる」との長官の言葉が心に響いた。

『命』は『つながり』において『生きる』ことが出来る(「生命誌研究者、中村桂子」)。「パン」や「経済」が第一にされたら「つながり」が崩れ、生きることが難しくなる。今、コロナ禍でつながりが脅かされて、生きることが難しくなり病んでいる社会だ。「文化」が第一となり「つながり」が強くなり生きることが出来る社会になることが切実に求められている。

(教団総会議長 石橋秀雄)